

令和元年度(平成30年度実施事業分)事務事業評価評価票

No. 29-012

PDCA	事務事業名	少年愛護センター運営事業	部課等名	教育部 生涯学習課 生涯学習担当	担当	鈴木	
					内線等	7241	
P 総合計画との関係性等	政策体系	章： 第2章 子育てと暮らしを地域で支え合うまち					
		節： 第1節 子育て・子育て支援の推進					
		基本施策： 4. 青少年健全育成					
		単位施策： (1) 青少年健全育成活動					
	根拠法令等	半田市少年愛護センター設置規則					
	対象・目的	市内の公園、遊技場、学校周辺、その他青少年のたまり場等を巡回し、問題行動の早期発見・早期指導を行い、青少年の健全育成と非行・被害防止に努める。					
	目的を達成するための手段・活動内容	少年愛護センターの少年指導員1名及び市内5地区少年を守る会から推薦された少年補導員141名により巡視活動を実施する。					
D 前年度の活動結果と見られた成果	活動結果	活動実績		28年度	29年度	30年度	単位
		①少年指導員・補導員による活動延べ回数		416	343	244	回
		②少年指導員・補導員による活動延べ人数		1,037	612	450	人
		③					
		事業費		352	282	302	千円
		人件費		6,399	4,185	5,525	千円
		総事業費		6,751	4,467	5,827	千円
		活動単位当たりのコスト		28年度	29年度	30年度	単位
	①少年指導員・補導員による活動1回当たりの経費		16	13	24	千円/回	
	②						
	③						
	成果	成果指標		28年度	29年度	30年度	単位
		①少年指導員による街頭指導人数	実績値	46	50	102	人
			目標値	40	40	20	
②		実績値					
		目標値					
③		実績値					
	目標値						
C 課題の整理	観点別評価	必要性	有効性		効率性		
		①市の関与の妥当性	妥当	④上位施策への貢献	大きい	⑦コスト削減余地	ない
		②市民ニーズ	高い	⑤成果向上の余地	ある	※対象・手段の変更	
		③休廃止の影響	大きい	⑥類似事業の有無	ない	⑧受益者負担適正化余地	—
	事業の評価・課題	B					
		少年愛護センターの少年指導員2名及び市内5地区少年を守る会から推薦された少年補導員138名により巡視活動を実施した。 こども110番の家の登録・廃止や看板の更新を随時実施し、周知にも努めた。					
	A 課題解決のための目標	今後の事業の方向性	統廃合等				
明るい青少年都市推進事業に統合する。 現在の事業は継続して実施するとともに、事業統合した利点を生かした事業展開を図る。							
令和元年度の目標		成果指標			目標値	単位	
		31年度より明るい青少年都市推進事業と統合するため廃止。					